

追悼：厳爽さんを偲ぶ

情報委員会委員長の厳爽さん(宮城学院女子大学)が、2022年12月6日に逝去されました。

2002年に急逝された外山義さんと同じ52歳の若さでした。長い闘病生活でしたが、ご家族の石井敏(当協会・総務担当理事・運営委員長、東北工業大学)さん、お嬢さんと共に、すい臓がんに立ち向かってこられたのに、無念でなりません。

留学生で、また日本語の語学力も抜群だったことから、厳爽さんは在学中から中国の病院・福祉施設の見学者や日本からの訪中団の通訳を引き受けて下さっていました。そうした活動を通して、日本と海外の医療・福祉施設に関わる建築関係者たちを繋ぐ力に期待され、2010年度からは協会の交際の活動を支える国際委員として、また2014年度からはその委員長として3期(6年間)、日中韓の交流企画である東アジアシンポジウムの活動や、さらにフィンランド留学で築き上げた人脈をもとに日本とフィンランドの交流活動を発展させるなど、様々に国際交流活動の中心的役割を担ってこられました。その後、後進に役割を引き継ぐことになりましたが、当協会設立来初めての、外国籍の委員長としての活躍は、協会の国際化は勿論、協会自身の多文化共生化を実現してきた功績は計り知れないものと、改めて感じています。2020年度からは情報委員長として貢献され、亡くなる3週間前の11月16日の運営委員会でも、様々な意見を述べて下さって、最後まで協会の活動にご尽力下さいました。

厳爽さんは、東京大学の長澤泰先生(当協会・元会長)の研究室に入学されて以降、一貫して福祉施設の建築計画研究をしてこられました。1998年には日本建築学会の優秀修士論文賞を、2006年には日本建築学会奨励賞を受賞され、将来を期待される若手研究者の一人でした。

11月5日に行われた中山茂樹前会長の慰労会でも、いつも通りのお洒落な姿で颯爽と会場に入ってこられました。周りの目を引き付ける斬新なファッション、忖度のない(これは言い過ぎかもしれませんが)意見表明等々、彼女はいつもブレずに生き抜いてこられたように思います。彼女自身の考えや想いを真っ直ぐに切り開いていく姿が思い起こされます。まだまだ、やり残したことはいっぱいあったと思いますが、天国でも変わらずお洒落に過ごして下さい。

心よりご冥福をお祈りいたします。

協会では、厳爽さんの足跡・業績を辿る企画を検討しようと考えています。また情報委員長の後任を至急選出することも、申し添えます。

一般社団法人 日本医療福祉建築協会

会長 山下 哲郎